

生活安全・危機管理・消防・情報化社会特別委員会質問事項

【安全管理局関係】

危機管理センターについて

情報管理の問題点について（11月1、2日危機管理室視察）

1．リアルタイム地震防災情報システム「READY」について

- ・ 位置付け
- ・ 訓練の実施状況
- ・ 被災時の幹線道路情報の集約、配信手順
- ・ システム再構築の計画について

問題点

- ・ 操作に時間がかかる
- ・ 緊急輸送路とそれ以外の路線（土木防災情報システムとの関係）情報が一元管理されていない
- ・ 印刷機能が動かない、どうやって道路啓開の計画を立案するのか

2．地域防災拠点における情報管理について

- ・ 安否情報システムの目的、運用について
- ・ 地域の被災状況把握方法
- ・ 防災拠点の状況把握と情報管理について

問題点

- ・ 外部への安否情報のみを目的にしている、そのほかにニーズを想定していない。
- ・ 拠点での人数の把握ができない。
- ・ 入力に時間がかかる、情報が不十分（身体状況：無事、被害有、不明の3段階しかない、軽症・重症の区分は必須ではないか）
- ・ 避難者カードについて一枚に5名しか記入できない。拠点で準備ができているか疑問。

3 . 危機管理センターのシステム再構築について

- (1) 現在の作業内容
- (2) システム再構築の基本的な考え方、基本方針について
- (3) 再構築するシステムの範囲
- (4) スケジュール

要望

安全理局の意識、もっと危機感、当事者意識を持って対応いただきたい (11/1,2 の視察、マニュアル、操作が不慣れ)

実際の地震の発生を想定したテストの実施、使える状態になっているのか確認が必要、その上で新しいシステムを検討いただきたい

通常使用しているシステムをベースとしたいざというときに確実に動くシステムをつくる、緊急時専用のシステムでは動かない、維持費がかかる。システム構築はお金をかければよいというものではない。

各拠点で役に立つシステム、時系列でそれぞれのニーズに応えることができるシステム

危機管理センターの完成前にできることは今すぐ実施する、既存システムの再確認、補助的な手段の具体的な準備

その他

1 . 総合防災訓練の実施状況について

(1) 総論

- ・ 平成 19 年度の実施内容、目標はどのように設定していたか
- ・ 平成 19 年度の総括、課題について
- ・ 地震防災計画、総合防災訓練の実施方法についてどのように規定されているか (区まかせになっていないか)

(2) 各論

本部訓練

(訓練シナリオについて)

- ・ 区本部訓練の内容について、シナリオの作成方法、シナリオに基づく訓練の意義
- ・ 都筑区のシナリオについてどのように評価するか
- ・ 各区の実施状況、18区でどのような訓練が行われているのか

(本部設置について)

- ・ 区本部の情報管理はどのように行われているのか、情報共有の重要性
- ・ 区本部設置規定はどのように規定されているか
- ・ 都筑区の本部設置に問題はないか
道路啓開・救出救助訓練の内容
- ・ 都筑区の訓練の内容と目的は
- ・ 実際の現場を想定した訓練になっているか
- ・ 市民参加の訓練にならないと意味がないのではないか

問題点

- ・ 台本を読んでいるだけの本部訓練では意味がない。台本の中にもおかしな点が多々ある。実際の状況を想定した訓練になっていない。
- ・ 区にまかせっきりになっていて、安全管理局の存在意義がない。
- ・ 消防が活躍する訓練を見せることで、公助に期待を寄せる状況を作ってしまった。

要望

- ・ 総合防災訓練の抜本的な見直し、実際の被災時を想定した訓練、真の市民参加の必要
- ・ 本部訓練、ロールプレイング方式の導入、各区での実施を義務付け
- ・ 区本部設置に関する規定の見直し、訓練のやり直し
- ・ 安全管理局内に監査組織をつくり、区の巡回を行う